

中央・新旭川まちづくり推進協議会 会議録 令和7年度2回

会議概要	
日時	令和7年11月19日(水曜日) 午後6時30分から午後19時45分まで
場所	旭川市役所 7階 大会議室B
出席者	委員（10名、正副会長以外は50音順） 中村副会長、伊藤委員、大西委員、菊地委員、佐藤（信）委員、佐藤（朋）委員、 素野委員、鳶川委員、福原委員、山岡委員 (欠席者 山田会長、今井委員、上野委員、大久保委員、久住呂委員、工藤委員、 佐藤（日）委員、高木委員、十川委員、長谷川委員) 事務局等 地域活動推進課 阿部主査 中央公民館 住吉館長 新旭川公民館 土橋館長
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第 資料1 中央・新旭川地域の補助事業 令和7年度の進捗状況 資料2 中央・新旭川まちづくり推進プログラム 資料3 まちづくり推進プログラムの改訂に向けて

(補足)「中央・新旭川まちづくり推進協議会」を以下「協議会」という。

議事の内容

1 開会

冒頭に、市の担当者から、市政情報の説明があった。

出席委員の確認、オブザーバー出席者の紹介を行った。

2 中央・新旭川地域のまちづくりの検討と推進について

(1) 補助事業の進捗状況報告

今年度、活動を実施している2事業について、資料2のとおり進捗状況を確認した。

ア 西地区で学ぼうさい（防災）2025

実施団体の西地区多世代交流この指と～まれ実行委員会に参画する菊地委員から、進捗状況について報告があった。主な内容は次のとおり。

- ・昨年度までは、西地区に住む人たちの横のつながりを構築し、幅広い世代が一緒に楽しめる様に、昔遊びやカーリンコンをしてきたという経過がありました。
- ・今年度は、実行委員のみんなの意向により、地域住民の関心の高い防災や互助活動などについて考える研修会を、10月4日に開催しました。
- ・会場は西地区にある眞久寺を使わせてもらい、参加者は51人（参加37人、実行委員14人）いました。
- ・旭川市防災課の大西氏と旭川市ボランティアセンターの堀川氏に講演してもらい、その後は防災食の試食会もしました。
- ・参加者からの反応としては、西地区に特化して組み立てられた研修であるため、身近に感じることができ、今まで参加した防災研修の中で一番良かったという声や、自助・共助の大切さ、日頃の人とのつながりの大切さを感じたという意見があった。
- ・防災をきっかけに住民同士のつながりや支え合いに気付いてもらえる機会になったと感じています。
- ・研修会の後に開催した実行委員会では、避難所での訓練やポータブルトイレ・段ボールベッドの組み立てなど、体験型の研修を実施することで、幅広い世代の参加が見込まれるのではないかという意見が出ていました。
- ・研修会時のアンケートでは、地域での学びの機会がほしいという声も多く上がっていたので、それらの結果を踏まえながら、住民同士のつながりや支え合いになるような企画を進めていきたいと思っています。

イ 朝日地域食堂「ひまわり」

実施団体の朝日地区ひまわりの会に参画する素野委員から、進捗状況について報告があった。主な内容は次のとおり。

- ・2か月に1回のペースで地域食堂を開催しており、10月には約160名が集まりました。
- ・朝日小にプラスバンドチームがあるので演奏してもらい、その家族も来てくれたため、かなりの人数となりました。
- ・人数が多いため、その場で食べるのではなく、お弁当を持って帰るという形式にしましたが、足りなくなるという事態になりました。

- ・演奏のほかに、工作コーナーや射的コーナーなども用意しました。
- ・回を重ねるごとに見たことのある顔が増えてきて、特に最近の子供達は知らない大人に声をかけられたら逃げろと教えられているため、大人と子供が顔なじみになれる場所となっている。
- ・長年続けていると、子供達の成長を見ることができ、それが楽しみにもなっている。
- ・災害時には、地域の人がボランティアとして避難所での炊き出しなどをしないとならないが、市民委員会の会長や町内会長が来たって経験がないため何もできない。
- ・自分たちはみんなで料理をするということは慣れているため、地域の交流として始めたことだが、防災にも役に立つと思う。
- ・少し話は逸れるが、先日、防災課の職員に来てもらい防災講習も実施した。講習で学ぶだけでなく、大鍋で作っておいた 30 人分の豚汁を講習後にみんなにふるまい、防災課が提供してくれたアルファ化米と野菜ジュースを配り、家に帰ってから食べてもらい、避難所がどんな感じであるのか少し体験してもらった。

(2) 中央・新旭川まちづくり推進プログラムの改訂について

事務局より、資料 2、資料 3 のとおり説明した。

(3) 旭川市地域自治推進ビジョンの見直しについて

事務局より、説明した。

(4) 意見交換『地域の防犯』について

意見交換における主な内容は次のとおり。

- ・コロナ禍で活動が停止している間に、市民委員会や町内会の活動から離れてしまった。年齢を重ねるほど地域の活動に疎くなってきてている。防災や防犯についても、活動が中断してしまい元に戻っていないと感じる。また、加齢だけではなく、不況や経済難により周りを見渡す余裕がなくなり、孤立してしまうという人もいるだろうし、家庭と地域がさらに離れていくのではないかと危惧している。自身は町内会長だが、同じ町内で亡くなった人がいても情報が入って来ない。地域が疎遠になってきていることに危機感は感じるが改善の手立ても見当たらない。地域の防犯活動も停滞している。
- ・最近は新聞のおくやみにも名前を載せないことがある。数か月前に亡くなっていたことを、たまたま会ったご家族から聞かされたこともある。結局は、亡くなったことを周知すると、香典返しなどの煩わしさが増えるためだと思う。
- ・昨今は個人情報について非常に厳しい時代である。地域の災害や防犯を対策するためには個人情報を共有しておいたほうが便利であるが、それができないため、なにかよい方法はないのかと考えている。

- ・過去には77歳になった方には、喜寿のお祝いとしてプレゼントを贈呈していたが、数年前からその情報も入って来なくなつたため、できなくなつてしまつた。個人情報の保護もわかるが、思いやりがなくなつてきていると思う。
- ・世代間の価値観や感覚にもかなりの差がある。高齢になるとデジタル化についていけないという話を聞くが、それぞれの世代の違いを認識しながら、柔軟にお互いを受け入れることをしないと溝が埋まらない。
- ・つながりを持つことがいけないこと、危険であるという風潮を感じる。
- ・町内会で言えば、つながりを持つことが本当に嫌というわけではないが、負担を押し付けられることを警戒しているのではないか。
- ・共通認識が異なり、関りも持ちたくないという人が集まると、まとまりがつかなくなる。
- ・世の中が便利になり、みんな困っていない。災害があったときに初めて誰も助けてくれないことに気付く。その時のために日頃からの準備が必要だが、ほとんどの人は備蓄品などを用意していないと思う。今朝も大分での火災のニュースがあったが、どこに住んでいても災害は起りうることだから、決して他人事ではない。旭川のように災害が少ない地域だと、その準備を余計に怠ってしまう。災害は少ないと、停電が起つた時に危険になる。真冬に停電になると、暖房だけではなく、水道やトイレも使えなくなる可能性がある。
- ・日頃生活に不自由することがなく、水でもなんでもコンビニに行けば買えるため実感が湧かないし、備蓄するという考えを持っていないと思う。
- ・みんなが前もって買っておけば困ることはないが、実際に災害が起きてからだと、店頭に人が集中し、買えない人が出てしまう。想定外という言葉があるが、想定はできるものである。役所の人が想定外という言葉を使うのは間違っている。そこを考えるのが役所の仕事だと思う。
- ・役所は地域が一緒に考えて、その機能を一緒に担つてほしいのだと思う。役所だけで考えたとしても、それぞれの地域に沿つたものが出来上がらない。
- ・防犯の会議をしようとしても人が集まらない。自身の地区だと34の町内会があり、全ての町内会長と火防部長に案内文を出したが、集まつたのは10人程度であった。
- ・回覧板を回すにしても紙が200枚ぐらい必要になる。そして町内会長に届けるシステムもない。市ではアプリで電子回覧板を使えるようにしているが、それほどまだ普及していない。うまく使えば便利なのだろうが使えていない。高齢者はスマホを使うのが苦手である。今度、スマート教室を企画しているのだが、講師は中学生か高校生に任せたいと思っている。世代間のコミュニケーションにもなり、面白いのではないかと思っている。自身の子供だと生意気に感じるため、地域の子供に教えてもらうほうがよい。
- ・うちの町内会には子供が1人もいない。デジタル化は良いことだと思うが、アナログもなくさないでほしい。

3 その他

(1) 次回の協議会について

次回の協議会は、改めて日程を案内することとなった。

4 閉会